

外国語教授法の応用実践と その現代的意義①

2015年2月11日
アクラス研修会



言語・生活研究所 代表
早稲田大学名誉教授
川口 義一



本講座の意義-その①

- The Silent Way・VTS・TPR・Natural Approachなどは、教師養成講座の教授法の講義では必ず触れられるものなのに、それが実際に日本語教育に応用されたらどうなるのかを教えている講座は皆無と言える。それは、養成講座の講師自身が、**それらの教授法理念が21世紀の外国語教育にとって、いかなるメッセージを含んでいるか**を理解していないせいである。本講座では、川口の早稲田大学における初級教授法実践の紹介を基に、これらの教授法の現代的意義について検討する。

※参考資料:川口版「21世紀の外国語初級教育の12のテーゼ」

- 最初のセッションでは、**サイレント・ウェイ(The Silent Way)**および**VTS**による発音指導について議論する。



初級レベルでの発音指導

- 初級から**必要**で、**しかも可能な**発音指導
- 仮名表記指導と発音
 - ⇒ **サイレント・ウェイ式**仮名導入表
- プロソディー(リズム・イントネーション)指導
 - ⇒ 中川・中村(2010)の**フレーズ**指導
- 特殊拍・アクセント・単音指導
 - ⇒ **ヴェルボ・トナル法**(VTS)の応用



新しい仮名指導の方法-Th1-3・7・10

- 発見型仮名文字・発音学習
⇒教師の**モデル発音なし**/文字→**文**→**意味**
 - 市販五十音ひらがな表の問題点
⇒**濁音**・**半濁音**・**促音**・**拗音**・**長音**・**助詞**(は・へ・を)
 - 市販五十音カタカナ表の問題点
⇒**濁音**・**半濁音**・**促音**・**拗音**・**長音記号**・**外来音**
- ◇ サイレント・ウェイ(The Silent Way)の、「教授は学習に従属する(subordination of teaching to learning)」という理念により、初級の第一日目から自律学習への扉が開かれる。「メンターとしての教師」の理論に関連付けが可能。

「SW式仮名導入表」補助表①

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ん | わ | ら | や | や | ま | は | は | な | た | さ | か | あ |
| | | り | | み | | ひ | ひ | に | ち | し | き | い |
| 〃 | | る | ゆ | む | | ふ | ふ | ぬ | つ | す | く | う |
| | | れ | | め | へ | へ | へ | ね | て | せ | け | え |
| 。 | を | ろ | よ | も | | ほ | ほ | の | と | そ | こ | お |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| り | み | ひ | に | ち | し | き |
| や | や | や | や | や | や | や |
| り | み | ひ | に | ち | し | き |
| ゆ | ゆ | ゆ | ゆ | ゆ | ゆ | ゆ |
| り | み | ひ | に | ち | し | き |
| よ | よ | よ | よ | よ | よ | よ |

「SW式仮名導入表」補助表②

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ◌ゝ | ワ | ラ | ヤ | マ | ハ | ナ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | リ | | ミ | ヒ | ニ | | | | | | | | | | | | | | |
| ◌◌ | ル | | ユ | ム | フ | ヌ | ツ | | | | | | | | | | | | | |
| ◌ン | レ | | | メ | | ネ | | | | | | | | | | | | | | |
| | ロ | | ヨ | モ | ホ | ノ | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



文字から単語・文への導入

- ここまで来たら、文字を指しながら、「すしは、すきですか」のような質問を作らせてその意味を教え、この質問にYesと答える人とNoと答える人を挙手させて確認し、それぞれ仮名表の文字を指して、「はい」「いいえ」の答えを言わせ、学習者同士お互いに質問させて、「はい」「いいえ」の答えでQ&Aの練習をします。それが済んだら、どの程度好きか嫌いかなどを聞きだし、それぞれに応じて、「だいすきです」「まあまあです」「あまりすきじゃないです」などを示して発音させ、この答えをもってまたQ&Aの練習をします。オーディオ・リンガルの教授法と違いますから、みんなで「だいすきです」と発音させる必要はまったくありません。そう答えたい人だけが、その言い方を学びます。

(「SW式仮名導入法」使用解説2014年度新版改訂より)



欧州における使用実践報告①

- これまで助詞の「を・へ・は」が発音と筆記で異なることを説明するのに手間取っていましたが、習い初めの段階でこのSW式表を導入することで、こちらの説明も相手側の理解も早くなる様に感じました。
また、発音と筆記法が異なる「い・う」に関しての色分けがされている点で、とても分かりやすく理解が早くなり、教えるのも楽だったように思います。
SW式表は、とても画期的で、カタカナの方も使ってみたいと思っています。

(スイスの高等教育機関)



欧州における使用実践報告②

- 「や行」、「わ」、「ち」、「つ」は解説書のと通りのヒントでほぼうまくいった。
- 「どうやってその音を出したか説明してみしてほしい」ということを繰り返し言うことで、学習者も少しずつ調音点や調音法に意識が向いていったようだった。
- 「すし、好き？」の対話活動は楽しそうにやっていた。
- 「ば」「ぱ」は両唇音だというヒントを出すと、うまくいった。
「ば」は、学生から「羊の鳴き声」というヒントが出た。
- 単語導入の際、高低アクセントを手で示すことで理解できた。「アクセントはどうやって示すのか」という質問が出たので、アクセント記号を説明する機会も得られた。

(イギリスの高等教育機関)



欧州における使用実践報告③

- 予想していなかった、ファンタやスプライトが出て、まずファの導入ができました。(中略)片仮名だと外国語に近い音が書けるという、この発明に、皆、感心しておりました。さらに「ポカリ・スウェット」まで出してくれたので、ウエの確認ができました。
- 仮名にこれだけの時間をかけたことはかつてありませんでした。今まで、なんという見切り発車をしていたんだろうと昔の自分を反省しました。平仮名の読みがおぼつかないうちから、教科書の例文を読ませて、できないのは努力か能力が足りないと信じていたのですから。自分の知りたいことで文字や文型を勉強することは大切です。

(ドイツの高等教育機関)

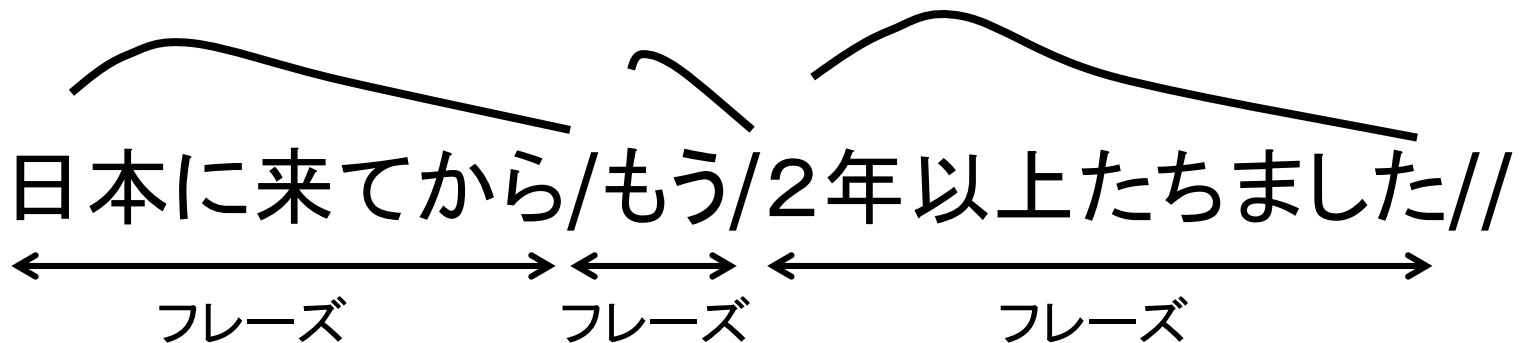


「フレージング指導」とは? -Th3・7・10

- 単音よりプロソディー(韻律:高低・長短・強弱)
 - ⇒リズム・アクセント・イントネーション重視
 - ⇒特に、イントネーション重視
- 単音重視の問題点
 - ⇒単音の矯正は困難で、苦手意識に([th]の悪夢)
- 聴覚印象上のイントネーションの優位
 - ⇒発話単位が長くなると、注意は大きな単位に
 - ⇒小さい単位(単音・アクセント)は、気づかなくなる

フレージング指導の方法-Th3・7・10

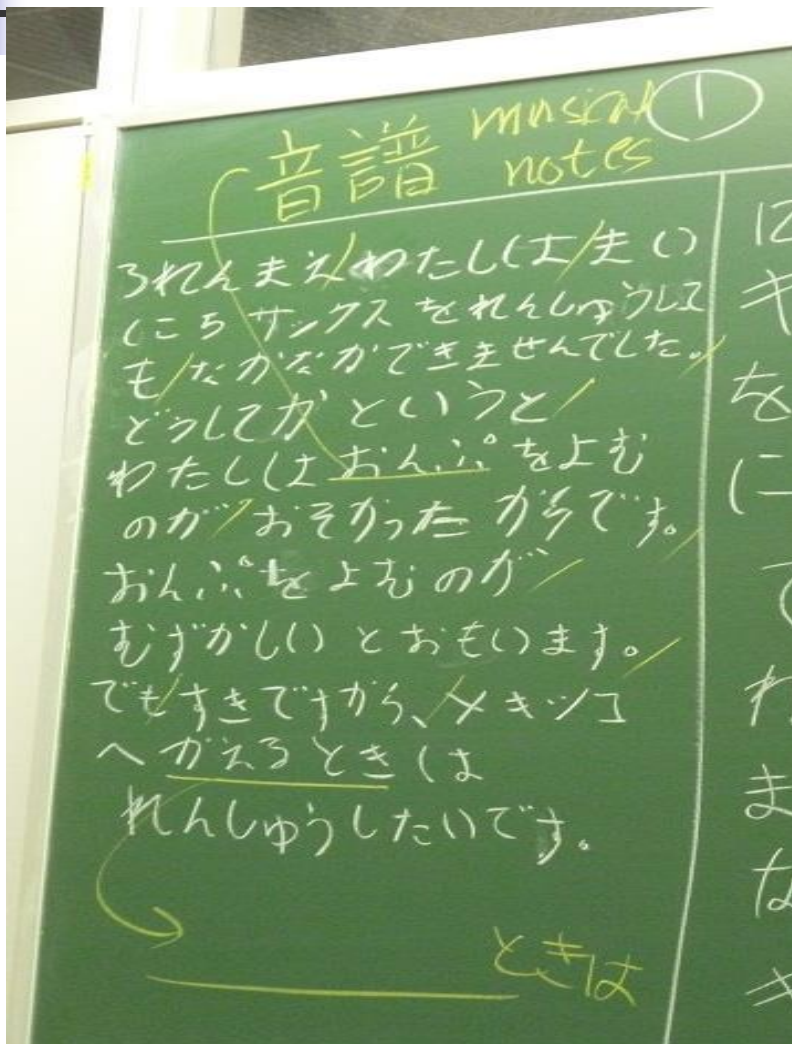
- **句切り**を入れる（初級から誰にでもできる）
- **「へ」の字**にする（平叙文のbasic intonation）



マークをつけることを**フレージング**と呼び

これを学習の一方法として提案する

文型作文の発表時の「区切り」

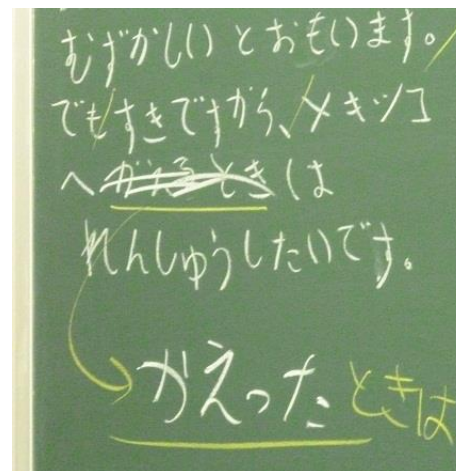


3年前／私は／毎日サックスをれんしゅうしても／なかなかできませんでした。

どうしてかという／わたしは／おんぷをよむのが／おそかったからです。

おんぷをよむのが／むずかしいとおもいます。

でも／好きですから、／メキシコへかえったときは／れんしゅうしたいです。



教師の指示で自己訂正 ←



「ヴェルボ・トナル法」とは？

- ヴェルボ・トナル法 = Verbo-Tonal Method
 - ヴェルボ・トナル法 = Verbo-Tonal System
- ⇒ SGAV (Structro-Globale Audio Visuale) 理論
 という言葉教育全体に関わる理論の応用
- ⇒ 難聴者の母語教育と外国語教育に適応
- ⇒ 外国語教育では、仏・英・西・日と教材あり



VTSのリズム指導-Th3・7・10

- 「プロソディ」重視:中川・中村との共通点
「リズム・イントネーション」が特定言語の「××語らしさ」の要
⇒教材がすべてスライドの画面と短文でできていて、短文のプロソディ的特徴をそのまま学ぶ
- 日本語のリズム
「2拍(拗音以外は仮名二文字)で1単位」となる。「音数律」
:日本語では子音要素の「促音」も「撥音」も「1拍」になる。
⇒「1拍」であれば、その長さはほぼ同じ:拍の等時性
- ◇ VTSは、「リズム・イントネーション=プロソディ」重視により、オーディオ・リンガルより大きい音声単位を意味レベルで扱うことができる。(コミュニケーション・アプローチは、発音指導に理念・技術なし)



日本語文芸のリズム

■ 日本民謡のリズム

こん・ぴ ら・ふ ね・ふね (金比羅船、船)

おい・て に・ほ か・けて (追い手に帆かけて)

しゅら・しゅしゅ・しゅ* * * *

■ 俳句のリズム

ふる・いけ・や* * * * (古池や)

かわ・ず* ・とび・こむ OR * か・わす... (蛙、飛び込む)

みず・のお・と* * * * (水の音)



「山型」リズム運動

- 「わらべ歌」のリズム

たこ・たこ・あが・れ * (凧、凧、揚がれ)

てん・まで・あが・れ * (天まで揚がれ)

- 普通の文のリズム分け

ーこん・にち・は * わた・しは・ヴァン・です

ーわた・しは・ヴォルフ・ガング・です (青字は1.5倍速)

- より大きなリズム分け(フレージングの一步手前)

こんにち・は * わたしは・ボブです / 川口・です



「O・Q型」リズム運動-Th3・7・10

- 長い文のリズムには、「O型」リズム運動(フレージングの補助)
「句切り」を一つずつ、空中に同じ大きさのOの字で書く
⇒あのをO・すみませんがO・もうちょっとO・ゆっくりO・
　　言ってください(ませんか・いただけないでしょうか)O
- 「O型」の利点: Oの大きさにプロミネンス(焦点)が示せる
⇒あのをO・すみませんがO・もうちょっとO・ゆっくりO・
　　言ってください(ませんか・いただけないでしょうか)O
- 「Q型」の意味: しっぽの上げ下げで、イントネーションを示す
⇒あのをO・すみませんが...言ってくださいませんか: ↓下げ
⇒あのをO・すみませんが...って何なんですか: ↑上げ

アクセントの指導-Th3・10

■ 日本語アクセントの特徴

「音調型」: 隣の拍との相対的高低差によるアクセント
「強弱型」(英語・ロシア語)でも「声調型」(中国語・タイ語)でもない

■ 「語連続」のアクセント

個別の語アクセントは消滅、句全体がひとつのアクセントに
⇒外国人(...コクジン)+留学生(...ガクセイ)=ガイコクジン...ガクセイ
⇒複合語や句は中高型が多く、強弱型話者も声調型話者も苦手

■ 「身振り」によるアクセント導入と矯正

- ① 頭高型は、手首を下にカクッと落とす身振りで。
- ② 平板型は、手首を上を上げて真っ直ぐ押していく身振りで
- ③ 中高型は、平板型に続けて、手首をスッと下に下ろす身振りで

◇ VTSは、音声指導に聴覚だけでなく、身体運動感覚を取り入れ、マルチ・チャンネルの習得・生成をサポートしている。この理論は、他の教授法では見られない。



単音の指導-Th3・10

- 特殊音素の拍感覚:「緊張」を感じて長く
- ツがチュに:「緊張」を感じて強く・鋭く
- 語頭の濁音:「弛緩」を感じて力なく
- 巻き舌のラ行音:「弛緩」を感じて軽く
- できるようになったら「気づき」を促す

⇒新しい「音イメージ」の習得

- ◇ VTSの身体運動感覚の利用は、「緊張」と「弛緩」の感覚調整により、単音の指導にも応用でき、かつ「意識化=consciousness raising」の理論に関連付けが可能。

「緊張 × 弛緩」式矯正の身体運動



ツ音の矯正



語頭の濁音の矯正



ラ行音の矯正

初級発音指導の要点-Th1-3・7・10

- 単語からの発音指導
 - ① 「SW式仮名導入表」で**単音・特殊音素の習得**
 - ② 単語・表現導入時に「**仮名表**」で発音を確認
- 文を自然なプロソディーで読む・話す練習
 - ① 文に「**句切り**」を入れる
 - ② その句切りに「**への字**」フレージングをする
 - ③ **プロミネンス**(間・音量・速度)を工夫する
 - ④ 聞きづらい**アクセント**と**単音**を矯正する(適当に)

◇ サイレント・ウェイ(The Silent Way)とVTSの併用で、オーディオ・リンガルにもコミュニケーションティブ・アプローチにもない、自律的な、かつマルチ・チャンネルの発音学習と「意識化」による習得強化ができ、教師も学習者も達成感のある発音指導が可能になる。



[参考文献]①

- 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『Live! 成長する教師のための日本語教育ガイドブック』ひつじ書房
- 小坏博子・木村政康・川口義一・安富雄平編著 (2002) 『聴覚・言語障害教育および外国語教育のためのVTS入門』・特定非営利法人グベリナ記念ヴェルボトナル普及協会(2009に解散)
- 戸田貴子編著 (2008) 『日本語教育と音声』くろしお出版
- 中川千恵子・中村則子・許舜貞(2010)『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』ひつじ書房
- 中川千恵子・中村則子(2010)『初級文型でできるにほんご発音アクティビティ』アスク



いろいろなことで...

いかがでしたか。
ご質問や
コメントを
お願いします。

chuankou@gmail.com

